

つうしん
「うちどく」通信～2018.5～〔筑南小学校 毎月7日はうちどくの日〕

1年 かえで 『カイジュウゴッコ』山本孝 Eヤ 読んだ人：お母さん

かえで：かいじゅうがこわかったけど、おもしろかった。

お母さん：「カイジュウゴッコ」はしたことがないですが、なんだか子どもの頃を思い出しました。昔は、塾に行く子どもほとんどおらず学童もなかったの、学校が終わると友達と話をしたり、遊んだりして帰っていました。忘れていた記憶を思い出し、なつかしい気持ちにさせてくれる本でした。

1年 だいち 『おばけいちねんぶん』星川遥 Eホ 読んだ人：お母さん

だいち：おばけがいちねんかんでてくるおはなしでした。

お母さん：季節によっておばけも変わり、家族の役に立ってくれるなら、我が家にも来てもらおうかなと思っています。

2年 はやと 『アレクサンダとぜんまいねずみ』レオ・レオニ Eレ 読んだ人：お母さん

はやと：まほうのとかげが、ぜんまいねずみからふつうのねずみにかえるところがすごかったです。

お母さん：はじめは、ふつうのねずみがみんなに可愛がられるぜんまいねずみになりたかったけれど、自分のことより、ぜんまいねずみを助けてあげたいという友情がすばらしかったです。良い本を借りてきたなあと思いました。

2年 はる 『りんごみのった』ひさかたチャイルド 62リ 聞いた人：お母さん

はる：ぼくは、りんごをつくっているのうかのひとは、いそがしいとわかりました。りんごの花にかふんをつけないと、みができないのがびっくりしました。のうかの人は、すごいなあとおもいました。

お母さん：りんごの花がとてもきれいだったので、びっくりしました。この本を読まなければ、りんごの花を知らないままだったかも…。息子に感謝ですね。はる、ありがとう！

3年 こうせい 『キツネとぶどう』イソップ Eイ 聞いた人：お母さん

こうせい：ぶどうはどんなあじかしりたいと思いました。

お母さん：キツネがぶどうをとろうとしても食べられず…。甘かったのか、苦かったのか気になりました。

3年 あい 『青い目のこねこ』エゴン・マチーセン 933マ 聞いた人：お父さん

あい：ねずみの国が見つかってよかった。青い目がきれいといわれたからいいなと思います。

お父さん：読んでいるうちに、子ネコの行動や気持ちが分かりやすく心に伝わってきました。1ページ1ページの文が少なく、子どもには読みやすい本でした。

4年 ひろ 『野はらの音楽家マヌエロ』ドン・フリーマン Eフ 聞いた人：お母さん

ひろ：マヌエロが、ずっと楽器をひいてみたかったけど、むりだからかわいそうでした。でも、くものおかげでハープを作れたからよかったなと思いました。

お母さん：マヌエロは、音楽が大好きなカマキリです。なかなか上手に楽器をひくことができなかったけど、くもの協力ですてきな楽器を作ることができました。友達の大切さを学んでほしいと思います。

4年 そらみ 『まつげの海のひこうせん』山下明生 (きょうかしよ) Eヤ 聞いた人：おばあさん

そらみ：「ぼく」がけんかに負けて、運動場にひっくり返ったら、みんながよびにきていたけど「ぼく」はおきなかったの、でんねんでした。

おばあさん：ケンカに負けてくやしいとき、いろいろな思いがこみあげてきたのでしょうか。最後は仲直りできて、笑顔になりよかったです。

【5/8 提出分】

提出数/人数 (欠席)

1年 16/17

2年 23/23 ☆GOOD☆

3年 17/19

4年 21/21 ☆GOOD☆

5年 25/25 ☆GOOD☆

6年 19/20 (1)

全校 121/125 (1)

5年 あおり 『どんなかんじかなあ』中山千夏 Eナ

聞いた人：お母さん

あおり：わたしは耳が聞こえなかったり目が見えなかったりするの、がどんなかんじなのか考えたことはなかったけど、この本を読んでそういうことを考えるのも大切だと思いました。

お母さん：体の不自由な友達を、どんなかんじか自分でよく考え、すごいねって伝えられていたことがすごいと思いました。

5年 みゆり 『ハチドリのはとしずく』辻信一 59

聞いた人：お母さん

みゆり：森がもえたら、植物や動物が生きられないので植物や動物たちがかわいそうでした。クリキンディという名のハチドリは、行ったり来たりして水のしずくを運んでいくとはえらいと思いました。そして最後に、クリキンディが「私は私ができているだけ」といっているときはえらいと思いました。

お母さん：クリキンディは、「今自分ができていることをしている」と、言っていました。その言葉に、日々の生活や仕事に必要な考えだなどと思いました。ムダなことでもコツコツやること、やりとげることが大事だと思いました。

6年 かなみ 『とんでもない』鈴木のりたけ Eス 聞いた人：お母さん

かなみ：みんな、なんだったらよかったかなと言っているけれど、それになってみたらわかる嫌なことなどがあって、結局どれになっても嫌になると思うので、やっぱり自分がいいなと思いました。

そして、最後のうらに後のことが書かれていて、そこには自分たちでだめなところをなんとかして良かったと思いました。

お母さん：自分にないものがよく見え、「あーあ、うらやましい」と、思うけど、とんでもない。やっぱり、どんなによく見えても、あったらあったで色々大変というお話でした。

6年 かき 『ぼくのニセモノをつくるには』ヨシタケシンスケ Eヨ

読んだ人：お母さん

かき：人間は木のようなものらしく、自分の木の種類は生まれつきだから選べないけど、それをどうやって育ててかざるのかは、自分で決めると書いてありました。なので、わたしらしく生きていきたいと思いました。

お母さん：子どもの頃、パーマンのコピーロボットがあったらいいなと思いましたが、この本を読んで、ありのままの自分を大好きでいることの大切さを学びました。とても良い本でした。